

1 研究主題

ゆるやかな協働性の中で、自律して学び続ける子どもの育成
～学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける子どもの姿を目指して～

2 研究主題設定の理由

名古屋市では、全ての子どもが学びを通して自分らしく、幸せに生きていくことができるよう、名古屋市の学びの基本的な考えとされる「ナゴヤ学びのコンパス」が策定された。

本校では、令和5年度より「ナゴヤ学びのコンパス」に目指す子どもの姿として示されている「ゆるやかな協働性の中で、自律して学び続ける子どもの育成」を主題に掲げ、授業研究に取り組んできた。

令和5年度は子ども自身が自分に合った学習方法を選択し、自己選択・自己決定をしながら学ぶことを重視した授業実践を行った。学びのコントローラーを子どもに渡し、子ども中心の学びを大切にすることで、一人一人が意欲的に学習に取り組む姿が見られた。令和6年度は子どもが学びたいことを、見付け夢中で探究しながら学ぶことを重視した授業実践を行った。子どもたちが興味・関心をもつような導入場面や授業展開を工夫することで、一人一人が意欲的に学習に取り組む姿が見られた。また、共通体験や日常実践を基礎として授業展開により、子ども同士が協働する姿も見られた。しかし、単元の最後まで意欲が持続せず、自律して学び続けることができなかった子どもの姿も見られた。

そこで、今年度は、自分の学びを振り返り、次の学びにどう生かすかを考える場面を設定する活動を繰り返し行わせることで、「学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける姿」を引き出し、目指す子ども像に迫りたいと考える。

3 研究の視点

目指す子ども像＝「ゆるやかな協働性の中で、自律して学び続ける子ども」

【児童】 学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける

【教員】 学習内容を振り返らせる方法を用意する

授業実践 学習内容を振り返らせ、それを活用させるための工夫

実践の場

- 各教科の学習・外国語活動
- 学級活動・総合的な学習

- 1学期 学年で実践する教科や単元を決定
- 2学期 授業実践
- 3学期 実践を振り返り、単元計画を修正
まとめの作成

4 推進の組織

